

趣意書

思いもかけぬ大雪で冬に逆戻りしたかとびっくりしましたが、少しずつ春が近づいているのを感じるこの頃です。

皆様お元気でご活躍の事と推察申し上げます。

私が県医師会在任中、生命倫理委員会のメンバーとして、その節は色々お世話になりました。立派な小冊子が出来ましたことを心からお礼申し上げます。

実は昨年10月第18回日本医学・哲学・倫理学大会が広島で開催されていました。私は県医師会報でそれを知り興味をおぼえ、そっと顔を出してみました。これまでこんな会があることも知りませんでした。

周囲を見回しましたが、開会式で挨拶された松浦医学部長以外に会場のなかに誰一人県内の顔見知りの医師の姿を見かけませんでした。

大会会長は広大文学部越智教授、学会長は県立保健福祉大学で哲学を講義されている女性の岡本教授で主催者側に地元医師の名前は見当たりませんでした。

内容は人間の尊厳、患者の人権、心と身体、インホームドコンセントなど直接医療に係わるものでしたが、演者の方々の医療現場に対しての批判、注文は厳しいものが多かったようでした。

会場の中で、旧知の弘前大学医学部名誉教授でセミナー「医療と社会」を主催されている品川信良先生を見つけました。先生は、直接患者と接触する第一線の臨床医が是非この会に参加し、議論に加わることが大切だと話しておられました。

医療が直接人間の生命・健康にかかわっている以上倫理の問題は到底避けてとるわけにはまいりません。特に市場競争原理が医療や福祉の中に持ち込まれようとしている現在その重要性は増しています。

医の倫理はそれが実践されてはじめて有意義なので、それをただ理論的に思索したり議論するだけでは、かえって医の倫理を冒瀆することになるのではないのでしょうか。

先日私は大雪の中、会長をされた越智教授を東広島の広大文学部にお訪ねし、この学会の内容や状況をお伺いし、ご意見もお聞きして来ました。

県医師会の生命倫理委員会を通じて灯された火を消すことなく医を哲学し、その倫理を実践するよう引き続き努力する責任が私たちに有るようにおもいます。

したがってどのような形で、それをすればよいのか、一部の方に集まっていただいでご意見をいただけたらと、このようなお便りをさせていただいた次第です。

大変ご多忙のなか恐縮でございますが、下記の要領でお集まり頂きますようお願いいたします。

2000.3 8

発起人代表

広島市南区宇品 4 丁目 4-4-8

福原整形クリニック

福原 照明